

平成 30 年度自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、学校法人新潟総合学院 長岡公務員・情報ビジネス専門学校の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

平成 3 1 年 3 月 1 2 日

平成 30 年度自己点検・評価の実施結果について

平成30年度に実施した「自己点検・評価」に関する実施結果について下記のように報告いたします。

点検・評価項目の達成度及び取り組み状況

ほぼ達成 (8割以上)	概ね達成 (6割以上)	変化の兆し (4割以上)	不十分 (4割未満)
A	B	C	D

1. 建学の精神・教育理念・教育目標			達成度
(1) 教育理念 (建学の精神)・目的・目標、育成人材像等が、明文化されているか。			A
項目	①	学生等に対して教育理念等を明文化し、周知を図っているか。	A
	②	教職員に対して教育理念等を明文化し、周知を図っているか。	A
	③	学外の方に対して教育理念等を明文化し、公表しているか。	A
評価の理由・課題・今後の改善方策	<p>当校では、教育理念、校訓、教育方針などを《学生の手引き》に記載して、毎年4月に実施する新入生・進級生のオリエンテーションの際に周知徹底している。</p> <p>職員には、毎年、内容の更新を行なった時点で、職員会を実施し、内容の確認・指導について、情報の共有・確認を行っている。</p> <p>学外に対しては学校HPによる情報公開を行っている。</p> <p>学習指導については、各系、各学科で作成されたシラバスに則り、建学の精神に基づいて、且つ、地域社会のニーズに対応し時代の要請に応えながら、企業等の現場に於いて即戦力となり得る人材の育成に努めている。</p>		

2. 教育の内容			達成度
(1) カリキュラム・シラバスの作成がなされているか。			A
項目	①	育成人材像に向けた修業年限分のカリキュラムが文書化されているか。	A
	②	カリキュラム作成が複数のメンバーにより行なわれているか	A
	③	カリキュラム作成にあたり、業界関係者等の意見が取り込まれているか。	B
	④	シラバスが作成されているか。	A
評価の理由・課題・今後の改善方策	<p>カリキュラムは、各系の教員と責任者である課長、教務部長がとりまとめて、各界の関係者（非常勤講師を含む）の意見も参考として作成され、副校長の承認を持って決定している。また、シラバスは科目担当者が作成し教務責任者の承認を得る形で決定する。</p> <p>カリキュラム及びシラバスは、教育理念・教育目標に沿いながら、各系・学科の特色が出るものとなっており、即戦力としての人材育成に役立つ構成になっている。より時代のニーズに合ったカリキュラムにできるよう、企業等との連携も図っていく。</p>		
(2) 教授学習プロセスへの改善取り組みがされているか。			A
項目	⑤	学生アンケートによる授業評価が定期的に行われているか。	A
	⑥	結果に基づく教員面接を実施しているか。	A
	⑦	結果に基づく授業観察を実施しているか。	B
評価の理由・課題・今後の改善方策	<p>学生に対する授業アンケートは、前期末・後期末の年2回実施し、その結果については、各系の教務課長から、専任職員に対してフィードバックされている。</p> <p>また、改善点や、問題点などに対して、各系の教務課長、教務部長、副校長が内容を確認している。</p> <p>入学時アンケート(新入生)や、就職決定者アンケート(卒年次生)を実施して、学生の声を吸い上げる取り組みも実施している。</p>		
(3) 各学科の教育目標、育成人材像に向け業界ニーズに対応した付加的教育の取組がされているか。			A
項目	⑧	企業・施設等でのインターンシップを行っているか。	B
	⑨	コミュニケーション能力の向上に向けた取り組みを行っているか。	A
	⑩	リメディアル教育を行っているか	A
	⑪	企業・地域・行政との連携を図っているか。	A
評価の理由・課題・今後の改善方策	<p>インターンシップは、学内での学習を裏付け、社会性を身につける絶好の機会として捉えており、参加する学生たちも意欲的に取り組んでいる。学生自身の希望職種への適性・自己発見に十分役立っていると思われるが、全員の参加には至っていない。学生の意識付けとともに、インターンシップ先の更なる開拓等も必要である。</p> <p>挨拶の重要性やコミュニケーション能力の必要性について、社会人として重視されている事はいうまでもないため、授業や日常生活においても、意識づけを行っている。</p> <p>各種ボランティア活動やイベントへの積極的な参加により、地域との連携を図っている。</p>		

4. 教育目標の達成と教育効果		達成度
(1) 各学科の教育目標、育成人材に向けてその達成への取り組みと評価がされているか。		A
項目	① 学生の就職に関する目標を設定したか。	A
	② 学生の就職活動に関する記録がなされているか。	A
	③ 学生の就職結果に関して検証・報告がされたか。	A
	④ 外部に向けた就職実績を公表しているか。(パンフレット、HP 等)	B
	⑤ 評価・成績に関する記録がなされているか。	A
	⑥ 資格・検定・コンペに関する目標を設定したか。	A
	⑦ 資格・検定・コンペに関する目標・計画が教職員に共有されているか。	A
	⑧ 資格・検定・コンペの結果に関して検証・報告がされたか。	A
	⑨ 資格・検定・コンペの結果(合格率等)を公表しているか。	A
	⑩ 退学率の目標を設定しているか。	A
	⑪ 退学率の低減に関する目標・計画が教職員に共有されているか。	A
	⑫ 退学結果に関して検証・報告がされたか。	A
	⑬ 卒業生の進路・就職先等の記録がなされているか。	A
	⑭ 卒業生の進路・就職先等を公表しているか。	A
	⑮ 卒業生の1年後の就職状況を把握しているか。	B
評価の理由・課題・今後の改善方策	<p>就職希望の学生に対しては就職部と担任が連携して指導を行い、内定率100%を目標として設定し達成した。全学生の就職活動記録が一覧表としてまとめて記録されており、後輩に向けた貴重な資料の一助ともなっている。</p> <p>各種資格試験・コンペ等にも明確な目標を設定して教職員で共有している。また報告書を作成、提出するなど、その結果を検証し次へのステップとして活用している。社会のニーズに対応できる即戦力としての資格取得を目指し、きめ細やかな指導を実施している。</p> <p>退学目標も年度当初に設定され、クラス担任を中心に各系で連携して退学抑止に努めている。情報は教職員だけでなく事務職員にも共有されている。</p> <p>卒業生の進路・就職先等は記録され、卒業後も就職担当による企業訪問の際に状況確認が行われているが、卒業後の進路変更については状況を把握しきれていない部分や把握が遅れる場合もある。</p> <p>地域社会で必要とされる人材の育成、地元への貢献をなし得る人材の育成をモットーに、学校教育を行っている。</p>	

(3) 各学科の教育目標、育成人材に向けて入学前から卒業後まで学生支援が整備され組織的に行われているか。(卒業後)			A
項目	⑯	卒業生の会(同窓会等)はあるか。	A
	⑰	卒業生への職業紹介をしているか。	A
	⑱	卒業生の就業先への定期的な訪問をしているか。	B
	⑲	学校情報を卒業生に知らせているか。(HP、学校便り等)	A
評価の理由・課題・今後の改善方策	年1回大規模な同窓会を実施してしる。また卒業生に希望があれば就職・転職相談にも対応している。卒業生の就職先への訪問が全員にはできておらず、次年度以降への課題である。学校情報は学校HPにおいて公開している。		
(4) 上記以外を通じての学生支援			B
項目	20	学校情報を保護者に知らせているか。(HP、学校便り等)	B
	21	学校情報を高等学校等に知らせているか。(学校便り、DVD等)	A
	22	学校情報を企業等に知らせているか。(学校便り、DVD等)	B
評価の理由・課題・今後の改善方策	学校訪問、HP、企業訪問、リーフレット等により情報提供を行っている。保護者に対しては、前期・後期末に成績表と共に学生の現状報告を行っている。今後は更に有益な方法を検討していく(保護者会の実施等)。		
	⑩	キャリアサポート関連の担当者があるか。	A
	⑪	担任以外に学生の健康管理・メンタルヘルスについて相談できる担当者があるか。	B
	⑫	学生の面談・相談記録があるか。	B
	⑬	定期的に健康診断を行っているか	A
	⑭	奨学金制度等の経済的支援があるか。	A
	⑮	保護者との計画的な相談会・面談を行っているか。	B
評価の理由・課題・今後の改善方策	本学では、入学直後(4月下旬)と、夏休み明け(9月上旬)、2年次進級直前(1月中旬)の年3回、担任による個人面談を実施している。また、学生の抱えている不安や要望の吸い上げ、対応の場として随時、面談・ガイダンスを行っている。常駐ではないが学校担当のカウンセラー(産業カウンセラー)が存在し、希望すればカウンセリングを受けられる環境がある。保護者との計画的な相談会を企画していく。		

6. 社会的活動			達成度
(1) 意図的・計画的・組織的に社会活動への取り組みが推進されているか。			A
項目	①	目標・計画に基づく社会的活動（地域活動、地域貢献、ボランティア活動等）を実施しているか。	A
	②	地域社会の行政、商工業、教育機関、文化団体等へ加盟しているか。	A
	③	上記において定期的な会合に参加しているか。	A
	④	教育資源（施設・設備の開放・教職員の出張講座等）を地域社会に提供しているか。	B
評価の理由・課題・今後の改善方策	<p>本校は、地域で開催されるボランティア活動、長岡市内の河川の清掃活動等で積極的に地域社会へ参加している。また、長岡商工会議所、長岡市国際交流協会等の会員として、地域活動の支援を行っている。</p> <p>長岡市を中心とする小学校や中学校の見学会の受け入れも積極的に行っており、要請によっては出張授業等にも参加している。</p>		

7. 管理運営			達成度
(1) 学校の管理・運営体制が確立しているか。			A
項目	①	理事会が定期的に開催されているか。	A
	②	評議会が定期的に開催されているか。	A
	③	運営会議（教職員会議・教員会議等）が定期的に開催されているか。	A
	④	組織の構成員のそれぞれの職務分掌が文書化されているか。	A
	⑤	賃金制度は文書化されているか。	A
	⑥	防災・防犯・非常時対策に対して文書化されているか。	A
	⑦	防災、防犯対策に対して組織化されているか。	A
	⑧	定期的に防災訓練を実施しているか。	B
	⑨	個人情報保護規定が文書化されているか。	A
	⑩	公印管理簿があるか。	A
	⑪	出退勤管理簿があるか。	A
	⑫	受信・発信簿があるか。	A
	⑬	教職員の健康診断がされているか。	A
評価の理由・課題・今後の改善方策	<p>理事会、評議会については、定期的にNSGグループ全体で行われている。学内においては、教務部門の会議、就職部門の会議を毎月1回開催して、学内（学生）状況の把握に努めている。</p> <p>個人情報保護や、健康診断などは、NSGグループ全体で管理・指導され、実行している。</p>		

8. 財務			達成度
(1) 財務体質が健全であり財務運営が適切に行われているか。			A
項目	①	年度予算、中期計画が策定されているか。	A
	②	予算は計画に従って妥当に執行されているか定期的に確認しているか。	A
	③	会計監査（内部・外部）体制のルールが明確化されているか。	A
	④	会計監査（月次決算書等）の結果報告が文書等にて明確化されているか。	A
	⑤	私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか。	A
	⑥	固定資産管理規定が文書化されているか。	A
	⑦	物品（消耗品・貯蔵品等）等の在庫管理をしているか。	A
	⑧	施設設備の保守・管理が定期的に行われているか。	A
	⑨	物品購入等における複数業者からの確認がされているか。	A
評価の理由・課題・今後の改善方策	<p>法人として健全な財務状況となるべく中長期で収支計画を立てており、適切に外部監査を受けている。現状で直ちに改善しなければならない大きな問題はないが、18歳人口の減少や高校新卒者の就職率など外部要因の変動による収支への影響に耐えうる財務基盤の構築を行っていきたいと考えている。</p> <p>（特記事項）学校法人として収支計画を立てているため、情報提供も法人単位としている。</p>		

9. 改革・改善			達成度
(1) 各学科の教育目標、育成人材に向けて自己点検・評価活動の実施体制が確立して改革・改善の為にシステムが構築されているか。			A
項目	①	自己点検・評価を適正に実施運用する為のルールが文書化されているか。	A
	②	自己点検・評価の組織があるか。	A
	③	評価・改善を行う為の組織があるか。	A
	④	自己点検・評価の必要性を全教職員に伝える機会を設けたか。	A
	⑤	自己点検・評価の結果を全教職員で共有する機会を設けたか。	B
	⑥	自己点検・評価の結果に基づき期限を定めて改善計画に基づいた結果の検証がされたか。	A
	⑦	自己点検・評価報告書があるか。	A
	⑧	自己点検・評価報告書が公表されているか。	A
評価の理由・課題・今後の改善方策	<p>学校管理、運営体制については、組織図、校務分掌を毎年度作成し周知徹底を図っている。</p> <p>又、自己点検・評価についても、NSGグループ全体で実施されており、上期・下期の年2回を実施して教職員の資質向上につながるよう努めている。問題、検討事項がある場合は、個人面談を実施して、改善に努めている。</p>		

以上